
なかじまひろあき (10) しょうらいのゆめはげだつです。

鳥木真

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なかじまひろあき（一〇）しょうりこのゆめはげだつです。

【ZPDF】

Z0101Z

【作者名】

鳥木真

【あらすじ】

俺が面倒を見ることになつたガキはどうしようもなく嫌味な奴だつた。

(前書き)

ジャンル分けをしたら、いんだな……
ほのぼのといいつつ割ときつい設定です。
R 15をつけるべきか…

「ああ、解脱してえ。陰陽道止めて仏門入りつかな。仏門」
ベッドの上でブツブツつぶやくがきんちよ。毎度のことながらむかつくやつだ。

「何を言つ安倍晴明の生まれ変わりが」
「だつてもう転生飽きたし」
「何枯れたこと言つてんだ10才のくせに」
「前世の記憶あるから芳樹より精神年齢上だよ」
「どうだか」

大人は温くなつた冷えピタを勝手にはがして投げつけてきたりしないと思つて俺は。

「どうせ来世も入院生活じやん。いつそ輪廻から抜け出したい」
「それつてヒンドゥー教の方じやないか?」
「どつちでもいいよ。とりあえずこの状況から抜け出せれば

抑えきれない苛立ちと諦めをため息と一緒に吐き出すガキ。もう何ども目にしてきた姿だがいつまで立つてもいたたまれない気分になる。

遠い目をして窓の外を見ているガキの額に新しい冷えピタを貼り付ける。

「ひやつ」

「ガキがいつも前に黄面でんじやねーよ。生姜湯作つてやるからそれ飲んでさつと寝ろ」
「…………ありがと」

魂に先天的異常を持つ人間を障り人といつ。

蓄えている力が大きすぎ、器である体が消耗していくのだ。
消耗を防ぐために体は外に排出しようとするが、高濃度のエネルギー
ーであるため爆発したり、周りの人の気分が悪くなったりする。
人のなかで生きるには体の中に溜め込まなければならない。が、溜
め込めすぎると死んでしまうため、人を傷つけて生きるか、我慢し
て早死するかの二択を迫られるわけだ。
しかも魂の病気なので死んでも治らない。

俺が面倒見てるガキもそれでしょっちゅう寝込んでる。

「なー芳樹」

「なんだガキ」

「力が無いってどんな感じ?」

「お前なあ。それを俺に言うか? 普通」

「ごめん怒つた?」

「別にお前の『デリカシー』のなさにはもつ慣れた」

力ある一族で、ただ一人、靈力なしの落ちこぼれの俺。
だからいつ死んでもおかしくないようなここに配属された。

「惨めなもんだよ。必要とされることがないってのは。……拒否権
も無いしな。俺に力があつたらこんな『デリカシー』のないガキの面倒
何て見てねーよ」

「ふうん。……力があるのとないのどっちが大変なんだろ?」

「さあ、人によるんじゃね?」

生きた爆弾に生まれるとその世話を押し付けられるの、どっちが
いいかなんてなつてみないとわからないだろう。

力が有りすぎて手に負えないからここにいるしかない「イツ」と力がないからここにしかいる場所がない俺。

いらない者という点では同じかもしれない。

しかし、どんな奇跡でも起こせる「イツ」と何の奇跡も起こせない俺とでは徹底的な意識の断絶がある。

謝つてはいるもののたぶんコイツはどれほど俺の心をえぐる発言かなんて根本的には理解していないのだろう。

「でも」

それでも俺は思つ。

「お前はどうしようもなくデリカシーが無くて、気難しくて、イヤミなガキだがなあ。

世話を焼くのは嫌いじゃない」

俺の言葉にガキの目が大きく見開かれ、ふにやりと緩んだ。

「芳樹はどうしようもなく平凡でつまらなくて弱いけど

いい漢だなあ」

「ガキがいつちょ前に評価してんじゃねーよ」

俺が面倒見るガキはどうしようもなく爺むさくて、イヤミでデリカシーが無くてむかつくやつだが、嫌いではない。

(後書き)

課題からの現実逃避作品。ショタツ子つていいよね。
確か解脱はヒンドゥーじゃなくて仏教だつたような……
輪廻思想自体はどつちもあつたと思います。

だから多分間違つてるのは芳樹の方。

ちなみに彼らがいるのは山奥の専用病院。ぶっちゃけ隔離施設。
障り人という名称は差別用語として撤廃の方向に進んでいます。
だいたいの子は20才くらいまででなくなつてしまつようです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0101z/>

なかじまひろあき（10）しょうらいのゆめはげだつです。

2011年11月30日20時04分発行